2009年「商店街連続出前寄席（大阪市商店会総連盟との協働企画）」を振り返って

2009年「出前寄席」の感想　　堀之内　卓

出前寄席は大阪市内の商店街の連合体である大阪市商店会総連盟（市商連）さんとの協働事業です。空き店舗を利用した演芸ライブを実施することで、商店街の活性化と演芸文化の普及促進を狙ったものです。2年目を迎えた今年度も大阪市内19箇所の商店街で実施されました。普段はテレビでしか見ることがない、漫才などの生の演芸を身近に触れて、商店街のみなさんには、おおいに笑って楽しんでもらえました。今年は昨年以上に芸人さんの顔ぶれも増え、27組、のべにしますと合計59組の芸人さんにご出演いただきました。また和歌山大学観光学部の学生さんたちにも運営スタッフとしてお手伝いいただきました。彼らにとっては普段の授業とは違った貴重な体験が出来たのではないでしょうか。ここでは言えないようなハプニングも時々ありましたが、商店街のみなさんやいつも舞台設営を行ってくれる劇団往来さん、そして会員のみなさまのご協力で無事に終了することができました。2年連続でお世話になった商店街さんもあり、こうした活動をきっかけに少しでも商店街のお役に立てればと思います。

●2009年開催された「出前寄席」

7/27(月)	17:00〜18:00	駒川商店街振興組合
7/28(火)	18:00〜19:30	駒川中通商店街
8/ 1(土)	14:00〜15:00	キララ九条商店街連合会
8/ 8(土)	17:00〜18:00	長吉中央商店街振興組合
9/ 6(日)	17:00〜18:00	新京橋商店街振興組合
9/21(月)	16:00〜17:00	天五商店街
10/ 3(土)	15:30〜16:30	港商店会
10/ 4(日)	14:00〜15:00	パルティちしま商店会
10/12(月)	14:30〜15:30	老松通り商店会
10/25(日)	12:45〜13:45	西成区商店会連盟
11/22(日)	10:00〜11:00	千日前道具屋筋商店街振興組合
11/28(土)	15:00〜16:00	三津屋商店街振興組合
11/29(日)	14:00〜15:00	今市商店街振興組合
11/30(月)	14:00〜15:00	鶴見橋一番街商店街振興組合
12/13(日)	13:00〜14:00	駒川駅前商店街振興組合
12/18(金)	11:30〜12:30	黒門市場商店街振興組合
12/19(土)	13:00〜14:00	地下鉄あびこ中央商店街振興組合
12/20(日)	13:00〜14:00	御幸東通商店街振興組合
12/23(水)	16:00〜17:00	生野銀座商店街振興組合

上方演芸よもやまばなし　（第5回）

近頃、活躍めざましい女性浪曲師の講座を聞きに行ってきました。浪曲の"いろは"から実演鑑賞まで、浪曲未体験の人でも十分に楽しめる充実したものでした。中でも面白かったのが掛け声の練習。客席から飛ぶ威勢のいい掛け声は、芸人さんにとってパワーの源です。ただし、タイミングがずれると効果半減という事で、その手解きを受けたのです。これが結構楽しくて会場は大盛り上がり。

では、そのタイミングをご紹介しましょう。浪曲師が舞台に登場。ここでまず、『待ってました!』。続いて前口上。その後、一席お付き合いを…と深々とお辞儀をしたところで、すかさず、『たっぷり!』。これでグッと気合が入るそうです。ポイントは臆せず、大きな声で言う事。確かに最初は勇気が要りますが、一度やってみるとこれが快感。自分も元気になれるから不思議です。

生の舞台には、掛け声はもちろん一方通行のTV等にはない醍醐味がたくさんあります。今年も大きな声で、関西の演芸文化にエールを送りたいと思っています。

松井　あゆ子

関西の上質な演芸文化のために…

NPO法人関西演芸推進協議会

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思っています。
あなたの入会で、まず一歩、参加してもう一歩…
と、おひとりおひとりの思いと存在がこの協議会、そして演芸会を活性化します。
皆様のご入会はもとより、ご友人、お知り合いの方にもお声かけをいただけましたら幸いです。

■主目的
1　定期例会の実施
2　関西演芸大賞の設立
3　芸人のための劇場をつくる

■会員特典
1　定期例会に、会員料金で予約できる。
2　関西演芸推進協議会が企画する各種交流会、勉強会に参加できる。
3　会報誌の発行（年3回）

■会費

入会金	個人会員		2,000円
	賛助会員		20,000円
年会費	個人会員	年間1口	3,000円
	賛助会員	年間1口	30,000円

※いずれも何口でも可能。

会員継続の手続きをお願いします。

会員継続のご案内をお送りしています。お届けしております振り込み用紙に必要事項を御記入の上、会費の納入をお願い致します。

公式ウェブサイトもご覧ください。
http://www.walive.org

関西から文化力 POWER OF CULTURE
関西演芸推進協議会は文化庁の関西元気文化圏事業に参加しています。

編集後記

2010年がスタートしました。今年は「良い年になるといいなぁ…」と思います。いや、ちょっと待って。「良い年になる」の前に、良い年に「する」気持ちが必要なのではないですか?そう、当協議会でいつも耳にする「おかしいから笑う」いや、「笑うからおかしい」ということ。行動があって、結果が生まれるということですよね。こうして、表現する機会に恵まれ、自身の熱計を公に出して活用させていただいているのですから、実行しなくては意味がありません。「良い年にしました!」と年末にはご報告できるように…。もう1ヶ月が過ぎています。課題はいっぱい!夢もいっぱい!!まずは、ひとつずつ丁寧にやっていきたいと思います。NPO法人関西演芸推進協議会でも年度末には「良い活動ができました」と言える1年にしたいと思います。皆さんはどんな1年にしたいですか?ご意見・ご感想もお待ちしておりますので、お気軽にどうぞ〜。

イベント報告＆案内

■3/25（木）定例勉強会（19:00〜）
於）立命館大学　大阪オフィス　「浪曲観賞会」他

2010.2.20(1000)

関西演芸推進協議会　会報誌
walive 笑ライブ
「笑ライブ」とは―「笑」、「和」、SHOW（見せる）＝LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いからネーミングしました。
第9号　2010年2月
発行／NPO法人関西演芸推進協議会　編集部
＜事務所＞大阪市浪速区難波中1-10-4　千房株式会社内
TEL.06-6633-1430 FAX.06-6633-1435
http://www.walive.org　info@walive.org

INFOMATION

2010年、早くも一ヶ月が過ぎ、当協議会も4年目の春を迎えようとしています。
あっという間の3年間で多くの会員の皆様との交流や、演芸との出合い・触れあい、講演での学びの場など様々な経験をさせていただくことができました。これも、会員の皆様のご協力があってできたことと感謝すると共にお礼申し上げます。今年の干支は「寅」。演芸の「演」の文字の旁も「寅」。さんずい辺を加え、寅が大船出に乗り出したい…。そんな気持ちで協議会の事業運営に取り組みたいと思っております。どうぞ皆様、変わらぬ御支援・ご協力の程、お願い致します。

CONTENTS

☆推進会議（'09.10/5）・・・・・・・・・・・・・・1頁
☆第13回「商店街の日」（'09.10/12）・・・・・・・2頁
☆勉強会　講演：横田博史氏（'09.11/6）・・・・・・3頁
☆2009年「出前寄席」報告
☆上方演芸よもやまばなし　・・・・・・・・・・・・・4頁
☆協議会入会のご案内　他

推進会議　2009.10.5　於）中之島公会堂

商店街の日の進行リーダーを務める雲雀さんが当日の要項を説明

2年目の取り組み「出前寄席」

10月5日、中之島公会堂会議室に於いて、協議会スタッフの皆さんとの交流と推進会議を行いました。
主な議事テーマは「今後の活動」の方向性の見い出しと、具体的なイベントのアイデアや内容についての提案。
参加された皆様から様々な意見が出され、2010年度の事業計画にひとつずつイベント内容が添えられていきました。
当協議会では大阪府教育委員会の活動である「心の再生」にも賛同していることから、中学校や小学校などの教育施設での出前寄席事業を推進し、「笑い」「演芸」を子育て・教育に活かしたいという思いを叶えて行きたいということで、参加された皆様に出前寄席の運業の呼びかけをしました。
会員の皆様も、このような主旨で演芸文化の推進・継承事業にご理解頂き、また、活動の場がありましたら、当協議会事務局まで、お問合せ頂きたく存じます。

今後の活動テーマ「楽しみ隊」

現代の社会情勢において暗いニュースが多い中、演芸文化の歴史をたどってみて、世間が暗い時こそ、寄席や風刺が生んだ笑いが人や商いなどを活気づけてきたものです。「おかしいから笑う。いや、笑うからおかしい。」そうしているうちに活気づくと、専務理事中井政嗣氏は挨拶の上でよく話します。そんな意図からも事業を運営するメンバーがまずは、心から楽しみ、笑いや喜びを共存できる協議会をとのことから、活動テーマ「楽しみ隊」として、今後の事業展開を行って行きたいと考えています。

今後の活動予定と方向性を確認

今回の会議では、参加された方から、イベントでの講演内容や、講師の先生のご提案をたくさんいただきました。既に今年度の計画として準備が始まっているものもあり、ますます楽しみなNPO法人関西演芸推進協議会。
最後の頁に予定されているイベントのご案内がございますので、是非、足をお運びくださいませ。皆様と一緒に「楽しみたい（隊）」。お待ちしています。

レポート 商店街の日 2009.10.12 於）精華小学校跡地

「第13回 商店会の日」～夢とにぎわい～

10月12日（月・祝）、大阪難波の精華小学校跡の校庭に於いて、第13回商店会の日の記念事業「にぎわい広場」にて、当協議会も昨年に引き続き「笑らいぶ」として参加、ゴスペルやダンス、漫才、マジックなどバラエティーに富んだ演目でお客様との共演を楽しみました。

▲寺尾仁志さんのトークとゴスペルメンバー「Human note」のライブ

▲シンデレラエキスプレス

▲サムライ勇・朝

▲ビックリTSUKASA

～舞台とお客様が一緒になるとき～

秋晴れの気持ちのよい空の下、舞台と客席がひとつになる瞬間は、笑いや感動といった快楽を覚える素敵なイベントとなったことと思います。年代、世代、性別を超えて、ミナミの街で温かいこころの通い合い！そんな体育の日の午後のひとときでした。

▲お客様も一緒に…

▲チアダンスチームの演舞もキュート！

関西のお笑い文化「演芸推進協議会に期待する」

東京での会合で挨拶を求められると紹介の段階で
必ず言われるフレーズがある。
「関西の方です、面白いオチにも期待しましょう！」
「なんでや！」と思いながらも、それに応えようとする
自分がいることに感心する事が多い。

幾つかの「オチ」も用意して参加するのであるが、
集まったメンバーやその場の雰囲気で用意した言葉とは異なる
「挨拶にオチ」をつけて話す時に、自分が関西人を意識する瞬間でもある。

もともと関西の落語の始まりは「京都の露の団四郎師」と伝えられていますが
「関西の芸」は小屋の中で落ち着いて話す「東京の芸」とは異なり、
「京都では北の天満宮」や「大阪では生玉神社の境内」などで行われた為、
客足を止めて聴いて貰う為に、賑やかな「大道芸」などがはやり、
それに街頭の客も一緒になって笑い、参加し、意見を言ったりして、
発展した経緯もあり「関西人独特」の
笑いの風土が出来上がった様にも思える。

芸人よりもはるかに面白い「一般素人」の芸やジョークに心和むことも再々有る。

芸は一生ものといわれ「一芸に秀でる」事は
それだけで尊敬される時代があったように記憶しているが、
最近の芸人を見ていると、よい芸を持って颯爽と登場して話題となり、
人気も出るが1～2年も経たない間に、
すっかり姿かたちを見かけなくなった人の多いことに気付く。

それは世間の芸を楽しむ速度が速くなり、
パッと沸き、すぐ飽きる時代なのか、
芸自体が本物ではなく「底の浅い芸」で
一度笑えば二度と笑えないような芸なのか、
そんな芸人や芸を持ち上げるマスコミの問題なのか判らないが、
とにかく物凄いスピードで、芸人や芸が新しく
生まれて消えていっている事実は誰も否定できない。

漫才は突っ込みとボケのコンビで行われる場合が多いが、
突っ込み（陰）ボケ（陽）の絶妙なバランスの話なり間合いなりで
見事な芸となり大衆にうけるのであるが、
最近のテレビで見ると2人で行う漫才の面白さよりも、
クイズ番組やバラエティ番組などの出演で
そのキャラクターを発揮している場面を見ることが多い。

その中で気になることがある、
クイズ番組で突っ込み（陰）の司会者が解答者のボケ役の
タレントを小馬鹿に笑いものにし「うけ」を狙うやり方である。
「出来る人」が「そうでない人」を人身御供的に扱うありさまは、
まさにいじめの原理がそこに見える。

そして茶の間でそれを子供達も見ているのである。
教育的に良いこととは思えない。

元来「関西」の面白さは街行く人も巻き込んで一緒に笑い喜ぶような
庶民の芸であった筈でありユーモアでありました。

決して「出来ない人」や「弱い人」を笑いものにするのではなく
自分の芸で人を楽しくする芸であったのです。

売れ始めるとすぐ東京に出て全国区で
人気者になる夢を否定はしませんが
「関西」で「関西人」にうける芸をもつ芸人を育て、
その芸人が「関西」に根付いて「関西お笑い文化」の
「伝統」や「面白さ」を受け継ぎ発展させていく、
そんな土壌を創る「演芸推進協議会」に期待したい
「平成22年」を迎えています。

安田紘一郎　株式会社 清話会 関西支局

レポート 勉強会

講師：徳田博丸氏（吉本新喜劇放送作家）
2009.11.6 於）大阪市立弁天町市民学習センター

“物語の細かな背景までをきっちり伝えて「笑い」に繋ぐ”

アドリブが多いように思っていた「吉本新喜劇」。しかし、ギャグのタイミングやリアクションまでも台本には書かれていた。さらには徳田氏の細かなメモ書き。とにかく、ストーリー展開として、登場人物の背景なども短い時間で観客にインプットさせておかなければ、「笑い」につながらないという。また、徳田氏が新喜劇の台本を手掛けるにあたっては、視聴者の傾向や特性を分析することからはじめたという。観ている人に訴える吉本新喜劇を…。確かに、アップテンポの台詞まわしや、「いじり」の切り込みでうけを狙う方向をコントロールしたり、ギャグの入れ方・引っぱり具合などの工夫…などなど。

▲放映された新喜劇を見ながら解説をいただきました。（左は演出家・鈴木健之亮氏）

▲徳田先生

時代で変わる「笑い」のツボ

観ていると、「夢中で笑う」という表現があてはまるような気がする。また、徳田氏と一緒に演出を手掛ける株式会社劇団往来・代表取締役・鈴木健之亮氏をゲストに、実際の「吉本新喜劇」を見せて頂きながら、エピソードを交えて解説を聞くという講演の構成で、約2時間、たっぷり笑って、未知の舞台裏を見せてもらうような貴重な話を聞かせて頂くことができました。

▲新喜劇を見て笑う受講者のみなさん

▲実際の台本も見せてもらいました。

徳田博丸氏　プロフィール

1972年大阪出身。
17歳のときに役者を志し、演劇の世界へ。
1997年松竹芸能在籍中に「ますだおかだ」のコント作家を担当したことをきっかけに、放送作家として活動を始める。
以降、芝居やラジオドラマの台本を多数執筆。
吉本新喜劇では100本以上の書き下ろし作品を発表。現在は主に辻本茂雄さん主演の作品を手掛け、数々の名物キャラクターを生み出している。
また、CMプランナーや企業のキャンペーンソングの作詞、イベントの構成・演出など多方面で活躍中。

ビジネスマナーと「笑い」の概念

ひとことで「笑い」といってもラーフ（Laugh）とスマイル（Smile）があるように、実に多様な概念で構成されている。

最近、テレビで人気のカリスマ・マナー講師が、
笑えない社員に笑顔の練習をさせているのを見た。

笑うということは人間にとって、本能的にみえながら、
無理して笑うのは結構むずかしい。
研修によってはマジックなどを口にはさんで、無理に
笑顔をつくる講師もいるぐらいだが、
実はこうして作った表情でも心がポジティブになると
いう意味では作らないよりはいいと云う。

ビジネスマナーでこうした研修を行うのは笑い方を教えているわけではなく、相手に好印象をもってもらうための表情を作っている。スマイルである。

少し笑いの起源をさかのぼってみると、笑いに進化がみられるのは、
霊長類である人間が二足歩行になった頃。呼吸と発声が分離する
ことで、より現在のような笑い方ができるようになったのだと云う。
笑い声や笑顔は、他者への安心感や、敵ではないというサインの役目を果たしてきた。
集団生活という相手があることのストレスを笑いが防御したり、
ときには攻撃して、身を守ってきたようだ。

こうして笑いは、進化しながら、私たちのDNAに受け継がれてきた。
だから、赤ちゃんは言葉を発する前に満面の笑顔で笑うことができる。

石井サト子